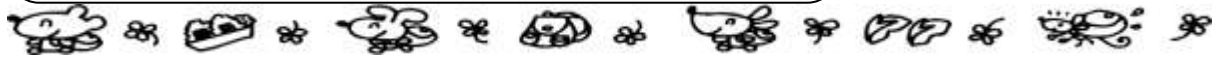


城っ子の未来を拓く

愛南町立城辺小学校
防災教育だより
2026.5.26 NO.2



少しずつ雨の日が増え、梅雨の訪れを感じる季節となりました。

5年生では、総合的な学習の時間に「助けられる人から助ける人へ」をテーマに、防災について学習しています。子どもたちは、災害について知るだけでなく、「自分たちにできることは何か」を考えながら学びを深めています。

現在は、「全校児童や地域の方々を巻き込んだ自分たちにできる防災の取組」について、グループで話し合っています。今回は、その中から現在話し合っている内容の一部を紹介します。

1. 予告なしの避難訓練

「いつも通りの避難訓練だけで、本当に命を守ることができるのだろうか。」そんな問いから生まれた考えです。災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。だからこそ、訓練の中であえて失敗したり迷ったりする経験も大切にしながら、一人ひとりが自分で考えて、命を守る力を身に付けていきたいと考えています。子どもたちは、「大人も子どもも本気になれる避難訓練にしたい」と話し合いを進めています。

2. 地域の方々を巻き込んだ取組

避難所での受付をスムーズに行うための「自分カード」づくりを考えています。避難してきた際に、名前や地区名、必要な薬の有無などを事前に整理しておくことで、少しでも安心して避難生活を送ることができるのではないかと考えています。「本当に必要な情報は何だろう。」「誰にでも分かりやすい形にするにはどうしたらよいだろう。」など、子どもたちは試行錯誤を重ねながら話し合いを進めています。



3. 学校でできる備え

今年度は全校で「自分だけの防災リュック」を作ることを考えています。災害が起こった時、すぐにリュックを背負って避難できるようにするためです。リュックの中には、水や簡易トイレ、自分が食べられる食料など、「自分にとって本当に必要なもの」を一人ひとりが考えて準備をします。この取組に向けて、まずは5年生が実際に防災リュックを作ってみようと考えています。実際に準備をすることで見えてくる課題がたくさん見つかると思います。



4. 避難所運営訓練

今年度も、避難所運営訓練を行う予定です。子どもたちは、避難所のレイアウトを考えたり、「たくさんの方が避難してきた時に、自分たちにできることは何だろう。」と話し合ったりしています。昨年度学習した福祉教育での学びも生かしながら、子どもたちは、「誰もが安全に安心して過ごすことができる避難所にするためにはどうしたらよいか」を真剣に考えています。